

チーム・ジャパンで取り組むバリアフリー・ユニバーサルデザイン施策

～「やさしい国・日本」を目指して～

- 2020年のオリンピック・パラリンピックを見据え、現状より一歩でも二歩でも進んだ取組を行う
 - ・ 大会の円滑な運営のため、空港からのアクセスルート等を中心に、より充実したバリアフリー化を実現
 - ・ ICT等を活用した情報案内など東京の最先端のユニバーサルデザイン化を通じ、超高齢社会の課題解決先進国としての日本をアピール
 - ・ 大会の開催効果を全国に波及させるため、また、地方創生の観点を踏まえ、地方の主要な観光地等のバリアフリー化を推進
- いつでも、どこでも、だれでも、安心して生活・移動できるユニバーサル社会、すなわち「やさしい国・日本」を目指す

1. ハード面のバリアフリー化の推進

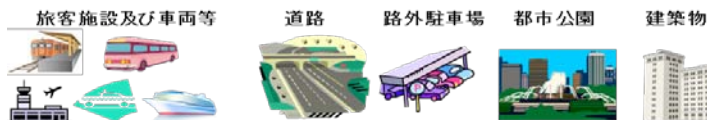
(1) 大会の円滑な運営に向けた重点的なバリアフリー化の推進

(2) 超高齢社会のショーケースとなるようなユニバーサルデザイン先進都市・東京の実現

(3) 東京2020大会を契機とした全国レベルでの戦略的・計画的なバリアフリーの推進

公共交通施設や建築物等のバリアフリー化

・1日の乗降客数が3,000人以上の旅客施設、特定道路について、2020年度までに原則100%のバリアフリー化など、バリアフリー法の基本方針に定める整備目標の着実な達成を図る。また、市町村における基本構想制度の活用を通じ、面的なバリアフリー化を推進。



主要な観光地のバリアフリー化

・地方の主要な観光地におけるバリアフリーに関する情報を収集・分析し、アクセシブルな観光地の推奨・公表を行うための評価指標を新たに整備。



ユニバーサルツーリズムの促進

・地域において高齢者、障害者等の旅行支援を行うバリアフリー旅行相談窓口の拠点数を増やし、併せて多言語対応や人的支援の充実を促進。



道路案内標識の英語表記改善

・公共交通など各機関の案内看板等と標記の整合を図り、道路案内標識の英語表記を改善。



2. ソフト面のバリアフリー化の推進

(1) 一般国民への普及・啓発 (心のバリアフリー) の強化

障害者団体の新たな参加も得て、セミナー・キャンペーン等を実施し国民的運動として展開。併せて、心のバリアフリーに関する副教材を作成。



(2) 公共交通事業者等によるソフト対応の充実等

大会ボランティア等との連携や、障害特性や言語・宗教等にも対応した研修の促進など、職員教育の充実を通じた接遇の向上を推進。



(3) 公共交通機関等の利用における障害者への対応の改善

障害者差別解消法の施行を踏まえ、職員等による人的対応の円滑化を図るとともに、分かりやすい情報提供方法を検討。

